

**I 2012 年度認証評価における指摘事項（努力課題） ※参考**

・収容定員に対する在籍学生数比率について、電気電子工学科で 1.21 と高いので、改善が望まれる。⇒2017 年度 1.08

**II 2016 年度 大学評価委員会の評価結果への対応**

**【2016 年度大学評価結果総評】**

理工学部に対する 2015 年度大学評価結果総評において、目標の置き方、達成方法の方策が優れ、教育方法に関する取組が評価される一方、それら施策の実施が遅れがちとの指摘があった。これに対し「2016 年度の年度目標に学科単位の FD 活動展開への企画・支援」、「3 つのポリシーによる教育・研究レベルの向上に関する内部質保証の強化」を掲げこれを実行するとともに、経年データを活用して入試経路別の成績推移などの分析を進め、募集人員の改定が行われるなど、施策実施の面でも改善が見られる。

総じて、自己点検・評価に関する活動は積極的かつ確実に実施されているといえ、数年を要するであろう教員組織構成における年齢の偏りのさらなる改善に、やや課題を残すと言えよう。

**【2016 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400 字程度まで）**

2015 年度大学評価結果総評に対し、理工学部では、「具体的な施策の実施」について、「2016 年度の年度目標に学科単位の FD 活動展開への企画・支援」、「3 つのポリシーによる教育・研究レベルの向上に関する内部質保証の強化」を取り上げている。また、「経年データの有効活用」については、理工学部は以下のような取組みも、ここ数年実施してきている。

- ・学生の入試経路毎に卒業までの成績を追跡し、入試経路と成績推移の関係を把握している。この知見から様々な入試制度の募集定員や指定校推薦入試の指定校選定等の検討も行われている。
- ・学部全体で TOEIC やプレースメントテストの結果を成績評価に利用し、これをもとにクラス分けを実施している。また理解度が低い学生にはチューター制度による補習学習を実施している。
- ・SA に関しては、SA 参加学生の渡航前後の成績や、平均的英語力についての推移を把握している。
- ・インターンシップの利用状況を把握し、学生の利用動向を調査している。

2016 年度に理工学部としては、更に以下の活動を積極的に展開している。

- ・学部執行部会議及び学部教授会にて、「理工学部専任教員の年齢構成の継続的改善努力について」の成果を再確認
- ・小金井キャンパスにおける「グローバルオープン科目の開設」への協力
- ・機械工学科航空操縦学専修のカリキュラムの大幅な改定
- ・理工学部の教育目標及び三つのポリシーの修正及びその完成版の公表
- ・学科ごとにチューター活動報告の集計
- ・科目の履修登録、チューター制度、実験・演習、カリキュラム、シラバス、インターンシップ、卒業研究、就職活動をすべて対象とした学生モニターの実施
- ・J S T さくらサイエンスプログラムの実施協力
- ・生体を対象とする研究に関する倫理委員会要領の制定
- ・学部 FD・質保証委員または学部専任教員による兼任教員担当科目の授業参観（2017 年度から）
- ・グローバル化対応の各種入試方法の積極的導入（2018 年度から）
- ・スポーツ推薦入試に理科の履修条件を追加し、入学後の修学困難に対応
- ・GPA 制度を活用し、学科ごとに学力不振者への個別対応

**【2016 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】**

理工学部では、2015 年度大学評価にて「目標の置き方、教育方法に関する取組などに対し、具体的な施策としての展開が遅れがち」と指摘されたことに対し、2016 年度においては学部としてこれに集中的に取り組んだものと評価できる。具体的には専任教員の年齢構成の改善について学部教授会で確認するとともに結果として若手教員の割合が明確に増加した。また三つのポリシーの修正並びに完成版の公表、特徴的な学科でもある機械工学科航空操縦学専修の大幅なカリキュラム改定、学科ごとのチューター活動報告の集計など、体系的かつ多面的に施策としての展開がみられる。すでに整備され機能している内部質保証の仕組みを活かし、これら施策による改善成果について今後具体的に把握されていくことが期待される。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

### Ⅲ 自己点検・評価

#### 1 内部質保証

##### 【2017年5月時点の点検・評価】

###### (1) 点検・評価項目における現状

1.1 内部質保証システム（質保証委員会）を適切に機能させているか。

①質保証委員会は適切に活動していますか。

はい いいえ

【2016年度質保証委員会の構成、開催日、議題等】※箇条書きで記入。

- ・内部質保証のため従来から活動していた8つの検討サブチームを改変し、2012年度から3つのテーマ別委員会（FD関連、特色ある教育、国際化関連）と新たな内部質保証委員会を発足させた。
- ・このテーマ別委員会と執行部による中長期計画策定および内部質保証委員会による自己点検PDCAサイクルを機能させ、教学面での内部質保証を行っている。
- ・学部の質を保証するための教学運営上の組織は十分整備されており、学部教員は全員が複数の委員会に所属している。
- ・内部質保証システムはテーマ別委員会、質保証委員会、学部執行部により適切に機能化している。
- ・これらの実績を踏まえ、2016年度理工学部質保証委員は大学院理工学研究科各専攻主任とすることを2016年5月27日に開催される第96回理工学部教授会で確認した。

###### (2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

##### 【この基準の大学評価】

理工学部では、従来の体制を2012年度に改変し、3つのテーマ別委員会、内部質保証委員会、執行部の体制により自己点検のPDCAサイクルが構築されている。学部教員はこれらの組織の複数の委員会に所属することによって、自己点検に直接従事するとともに、意識向上が図られている。また、2016年度には質保証委員会委員は大学院理工学研究科各専攻主任とすることを教授会において確認した。

#### 2 教育課程・学習成果

##### 【2017年5月時点の点検・評価】

###### (1) 点検・評価項目における現状

2.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

##### 【学位授与方針】

理工学部の教育目標に従い、以下の能力及び人間的、社会的規範を持った人材を育成する。卒業所要単位を修得した学生はこれらの能力について基準を満たすと認め学位を授与する。

1. 専門分野の体系的学識を持ち、優れた問題発見・解決能力を有するとともに変化の速い先端技術に自律的に柔軟に対応可能な専門性を有する。
2. 専門分野の学識に加え学部教育で総合的に培われた基礎・基盤学問分野の素養をもとに新たな分野の開拓・創生に挑戦する創造的姿勢を有する。
3. 専門分野において外国語によるコミュニケーションが可能であるとともに異文化を良く理解し、グローバルに活躍できる国際性を有する。
4. 技術と社会のかかわりを深く意識し、高い倫理観を持って持続可能な社会構築にむけリーダーシップを発揮し貢献できる豊かな人間性を有する。

①学部（学科）として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件）を明示した学位授与方針を設定していますか。

はい いいえ

2.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

##### 【教育課程の編成・実施方針】

理工学部の教育目標・ディプロマ・ポリシーに従った教育を実施するため、下記の方針に従って教育課程を編成する。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>1. 時代のニーズに対応したコース設定により履修を体系化させ、社会の要請に応える質の高い教育を実施する。</p> <p>2. 少人数のゼミ教育のなかで先端的な実験・研究への取り組みを行うことにより高度な専門性と独創性を身につけさせる。</p> <p>3. 学びの多様性、学際分野の学びに対応するため、学部横断的教育プログラムを設ける。</p> <p>4. 自然法則に感動を覚える基礎実験、参加型学習（PBL）等により高い動機づけを行う。</p> <p>5. インターンシップ等のキャリア教育により実務能力と社会人としての倫理観を育成する。</p> <p>6. 外国語による論文作成法や口頭発表等の実用的なコミュニケーション能力の涵養をめざし、能力別、少人数教育、スタディアブロード（SA）等を実施する。</p> <p>7. 自然科学系の基礎科目（数学、物理）について基礎学力が不足する学生に対しリメディアル教育を充実させる</p>	
①学生に期待する学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針を設定していますか。	はい いいえ
②教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。	はい いいえ
<p><b>【根拠資料】</b> ※冊子名称やホームページURL等。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>理工学部生のための履修の手引き</li> <li>理工学部の教育目標及び三つのポリシー</li> </ul>	
③教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。	S A B
<p>(～400字程度まで) ※検証を行う組織（教授会や各種委員会等）や検証の時期等、検証プロセスを記入。</p> <p>質保証委員会、執行部会議及び教授会において、年度目標及び達成指標に基づく評価を実施し、併せて、改善点を明確にすることにより、継続的・組織的なチェックを行っている。</p>	
<p><b>【2016年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>2016年度に理工学部としては、以下の努力をしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小金井キャンパスにおける「グローバルオープン科目の開設」への協力</li> <li>機械工学科航空操縦学専修のカリキュラムの大幅な改定</li> <li>理工学部の教育目標及び三つのポリシーの修正及びその完成版の公表</li> <li>学科ごとにチューター活動報告の集計</li> <li>科目の履修登録、チューター制度、実験・演習、カリキュラム、シラバス、インターンシップ、卒業研究、就職活動をすべて対象とした学生モニターの実施</li> <li>学部FD・質保証委員または学部専任教員による兼任教員担当科目の授業参観を2017年度から実施</li> <li>GPA制度を活用し、学科ごとに学力不振者への個別の対応を行っている</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>理工学部教授会資料</li> </ul>	
2.3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	
①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。	S A B
<p>(～400字程度まで) ※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。</p> <p>上記の教育課程の編成・実施方針に基づき、体系化され配置された科目に対し、学部として適切な教員を人選し、各課程に相応しい教育内容を提供している。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページURLや掲載冊子名称等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>理工学部生のための履修の手引き</li> <li>理工学部教授会資料</li> </ul>	
②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。	S A B
<p>(～600字程度まで) ※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修（個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ（必修・選択等）含む）への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。</p> <p>教育課程の編成・実施方針に基づき、機械、電気電子、応用情報、経営システムの各学科の専門教育では、コース制を設け教育課程を体系化している。さらに、コースや境界領域で選択科目の履修モデルを設け体系的な学びを可能としている。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

創生科学科ではコース制は設けていないが、4つの学習フィールドを設定し、理工学部教育課程編成・実施方針に基づき有機的なつながりを理解する能力、多様な領域へ適用できる能力の育成等、時代の要請に合った教育課程を体系的に編成している。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・理工学部生のための履修の手引き	
③幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
(～400字程度まで) ※カリキュラム上、どのように教養教育等が提供されているか概要を記入。 建学の理念を踏まえ、豊かな人間性に支えられた自由な思考能力を育成するための幅広いカリキュラムを用意し、さらに学びの多様化に対応すべく他学科科目の履修も可能としている。また、教養科目全体を語学系、人文・社会・自然科学系、保健体育系、数学・理科系、リテラシー系に大別し体系化している。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・理工学部生のための履修の手引き	
④初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
(～400字程度まで) ※初年次教育・高大接続への配慮に関し、どのような教育内容が学生に提供されているか概要を記入。 初年次教育は教養科目の中で実施し、特に、附属校と特色ある高大連携プログラムを検討・実施するとともに、附属校推薦入試と指定校推薦入試の進学予定者に入学前の学習プログラムを設けている。また、理工学部新入生全員に対し、数学・英語・理科におけるプレースメントテストを実施し、能力別のクラス分けも配慮している。	
<b>【2016年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 理工学部では外国人留学生の在籍者数はそれほど多くとは言えない。グローバル化対応の各種入試方法に対し、2016年度中で慎重に検討を重ね、2018年度入試から導入することを決めた。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・理工学部生のための履修の手引き ・プレースメントテスト実施報告書	
⑤学生の国際性を涵養するための教育内容は適切に提供されていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> S A B
(～400字程度まで) ※学生に提供されている国際性を涵養するための教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。 2010年度から国際化に対応するためのSA(Study Abroad)プログラムを継続的に実施している。この他、国際化を意識した英語能力向上のための少人数教育を必修科目として実施している。	
<b>【2016年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 2016年度に理工学部としては、以下のグローバル化対応の活動を展開している。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小金井キャンパスにおける「グローバルオープン科目の開設」</li> <li>・JSTさくらサイエンスプログラムの実施協力</li> <li>・グローバル化対応の各種入試方法について、2018年度入試から積極的に導入することを決定</li> </ul>	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・理工学部教授会資料 ・理工学部生のための履修の手引き	
⑥学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
(～400字程度まで) ※学生に提供されているキャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。 キャリア教育では、インターンシップを3年次生対象に実施している。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・理工学部生のための履修の手引き	
2.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	
① 学生の履修指導を適切に行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> S A B
<b>【履修指導の体制および方法】</b> ※箇条書きで記入。 ・学科別ガイダンスで履修の手引きを配布している（シラバスはWeb閲覧可能）。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科主任ならびに実験・実習、演習担当者による十分な履修指導を行っている。</li> <li>・各学科においてオフィス・アワーを周知し、学生の履修相談に対応している。</li> <li>・低学年（1、2年生）に対しては、クラス担任による個別の履修指導を行っている。</li> <li>・新1年生に対し、上級生の成績優秀者によるチューター制度と専任教員によるプレゼミ制度も設けている。</li> </ul>	
<b>【2016年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科ごとにチューター制度の利用者数の集計を行っている。</li> </ul>	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・理工学部生のための履修の手引き</li> <li>・理工学部教授会資料</li> </ul>	
② 学生の学習指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
（～400字程度まで）※取り組み概要を記入。 重要な科目については講義に加え演習を設け習熟度を上げている。科目によってはスキル向上のため、20名以下の少人数クラスの必修科目としている。また、1年次から科学実験、物理学実験、化学実験、生物学実験、2年生以上においては少人数グループによる専門実験、ゼミ実験等を充実させ専門分野のセンスを養っている。この他、オフィス・アワーなどの種々の機会も併用し、個別の学習指導も行っている。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・理工学部生のための履修の手引き</li> </ul>	
③ 学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行なっていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
（～400字程度まで）※取り組み概要を記入。 学習時間を確保する目的で履修登録科目の履修制限を実施している（原則として春・秋学期の各30単位かつ通年49単位）。ただし、優秀な学生に対する学びの機会を確保するため、2年次以降はGPAが3.0以上の学生については通年49単位の履修上限を60単位に変更している。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・理工学部生のための履修の手引き</li> </ul>	
④ 1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<b>【履修登録単位数の上限設定】</b> ※1年間又は学期ごと、学年ごと等に設定された履修単位の上限を記入。 学習時間を確保する目的で履修登録科目の履修上限を設定している（原則として春・秋学期の各30単位かつ通年49単位）。	
<b>【上限を超えて履修登録する場合の例外措置】</b> ※履修登録単位数の上限を超えて履修できる場合、制度の概要を記入。 ただし、優秀な学生に対する学びの機会を確保するため、2年次以降はGPAが3.0以上の学生については通年49単位の履修上限を60単位に変更している。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・理工学部生のための履修の手引き</li> </ul>	
⑤ 教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<b>【具体的な科目名および授業形態・内容等】</b> ※箇条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生自身で問題を発見し、その解決を考える力をつけるため、PBLを必修として、「主体的な学び」を視野に入れた授業形態を導入している。</li> <li>・実社会での体験を通じて学ぶインターンシップ科目を設定し、研究・技術者としてのリーダーシップ能力等の育成とその充実も目指している。</li> </ul>	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・理工学部生のための履修の手引き</li> </ul>	
⑥ それぞれの授業形態（講義、語学、演習・実験等）に即して、1授業あたりの学生数が配慮されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
（～400字程度まで）※どのような配慮が行われているかを記入。 それぞれの授業形態に、講義、語学、演習・実験等において、1授業あたりの学生数が配慮されている。特に会話形式の必修語学授業、実験装置の制約に係る演習・実験科目等で1クラスの学生数の上限を概ね設けている。	
<b>【2016年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

留年者、休学者及び退学者の情報を学科または学部執行部の会議で把握している。成績不振の学生に個別で学科主任または担当教員から対応をとっている。また、本学のグローバル化対応のための大学院 IIST プログラムと連動した学部レベルの外国人留学生の修学支援策を検討していきたい。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・理工学部教授会資料
- ・理工学部生のための履修の手引き

⑦ シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。

はい いいえ

【検証体制および方法】※箇条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。

- ・適切なシラバスに基づく教育を実施するため、Web シラバスの校正・確認を教員に求め、翌年度のシラバスチェックを実施している。
- ・共通科目である数学については、線形代数と微積分について統一シラバスによる教育を実施している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・理工学部生のための履修の手引き
- ・理工学部教授会資料

⑧ 授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。

はい いいえ

【検証体制および方法】※箇条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。

- ・授業がシラバス通りに行われているかの検証について、授業相互参観の組織的な実施や授業改善アンケートによってある程度の状況把握を行っている。また、2016 年度理工学部学生モニターを実施し、授業がシラバス通りに行われているかどうか確認している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・理工学部教授会資料

2.5 成績評価と単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

① 成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。

S A B

【確認体制および方法】※箇条書きで記入。

- ・成績の評価方法、評価基準については Web シラバスに明記し厳格な運用を心掛けている。
- ・成績評価に関しては GP 及び GPA を算出している。
- ・成績評価について共通認識を目指す検討を行っている。

【2016 年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。  
授業がシラバス通りに行われているかの検証について、授業相互参観の組織的な実施や授業改善アンケートによってある程度の状況把握を行っている。また、2016 年度理工学部学生モニターを実施し、授業がシラバス通りに行われているかどうか確認している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・理工学部教授会資料
- ・WEB シラバス

③ 他大学等における既修得単位の認定を適切な学部（学科）内基準を設けて実施していますか。

はい いいえ

(~400 字程度まで) ※取り組み概要を記入。

理工学部は他大学等からの転・編入を実施していないため、他大学等における既修得単位の認定をしていないが、本学部生の海外派遣留学の場合、留学先大学の修得単位を認定することは可能になっている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・理工学部教授会資料

④ 厳格な成績評価を行うための方策を行っていますか。

S A B

(~400 字程度まで) ※取り組み概要を記入。

定期試験、レポート、平常点などによって、総合的かつ厳格に成績評価を行っている。また、成績発表後の一定期間中に、学生による成績評価の調査申請制度を設定・実施している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・理工学部教授会資料
- ・理工学部生のための履修の手引き

⑤ 学生の就職・進学状況を学部（学科）単位で把握していますか。

はい いいえ

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p><b>【データの把握主体・把握方法、データの種類の等】</b> ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学科に就職担当を置いている。</li> <li>各学科とキャリアセンターとが連携しながら把握している。</li> <li>就職・進学情報は大学院専攻会議で共有している。</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>理工学部教授会資料</li> </ul>	
<p>2.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。</p>	
①成績分布、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p><b>【データの把握主体・把握方法、データの種類の等】</b> ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学生個々の成績分布を GPA により評価し、学科で把握している。</li> <li>進級は学科教室会議ならびに学部教授会で把握している。</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>理工学部教授会資料</li> </ul>	
②学位授与方針に明示した学生の学習成果を把握・評価していますか。	S <input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>(～400 字程度まで) ※取り組みの概要を記入 (取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学修成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等)。</p> <p>学生の学習成果を測定するため GPA の学科別分布、必修科目の不合格者統計を取り分析している。また英語力については入学年度 4 月と 12 月、および 2 年次秋に TOEIC テストを行い学習効果の検証を行っている。これにより少人数教育と能力別クラス編成で大きな教育効果を得ている。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>理工学部教授会資料</li> </ul>	
③学習成果を可視化していますか。	S <input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p><b>【学習成果可視化の取り組み】</b> ※取り組みを箇条書きで記入 (取り組み例：専門演習における論文集や報告書の作成、統一テストの実施、学生ポートフォリオ等)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>成績に関する基本統計データをグラフや表などの形で可視化している。</li> <li>各種分析法を適切に施して得られたデータの可視化については、各委員会等で継続的に検討し教授会等で情報共有を行っている。</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>理工学部教授会資料</li> </ul>	
<p>2.7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みも行っているか。</p>	
①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程およびその内容、方法の改善に向けた取り組みを行っていますか。	S <input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>(～400 字程度まで) ※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プレースメントテスト結果の集計</li> <li>GPA の学科別分布の解析</li> <li>必修科目の不合格者統計</li> <li>TOEIC スコアの集計解析</li> <li>教室会議、執行部会議、教授会にフィードバックする体制の構築</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>理工学部教授会資料</li> </ul>	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	S <input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p><b>【利用方法】</b> ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学生による授業改善アンケートを各教員のシラバスに反映させ、フィードバックしている。</li> <li>授業改善アンケートにおける自由記述欄の導入と GPA のクロス集計を実施し、自由記述欄と GPA との相関について分析している。</li> <li>理工学部独自の質問項目を設定し、履修状況の把握も行っている。</li> </ul>	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・理工学部教授会資料

## (2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2016 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

## (3) 現状の課題・今後の対応等（必須項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

- ・授業はシラバス通りに行われているかの検証について、授業相互参観や学生モニター制度を活用し、概ねシラバス通りに行われているという認識であるが、今後、授業改善アンケートにも取り入れて検証したいと考えている。
- ・学科単位のFD推進活動への支援について、兼任教員も含む学科全教員の参加する講師懇談会を現状の年1回開催から年2回開催へ提案したい。

## 【この基準の大学評価】

### ①方針の設定に関すること (2.1～2.2)

理工学部としての学位授与方針、教育課程の編成・実施方針が設定され、理工学部生のための履修の手引き、WEBなどにより周知・公表されている。学士（理工学）の授与にあたり習得が必要な卒業所要単位、その基準が示されている。教育目標、各種方針の検証については、質保証委員会、執行部会議及び教授会において継続的・組織的なチェックを行っている。

### ②教育課程・教育内容に関すること (2.2)

理工学部の機械、電気電子、応用情報、経営システムの各学科では、コース制を設けるとともに、選択科目の履修モデルなどを示して教育課程を体系化している。教養科目については、語学系、人文・社会・自然科学系、保健体育系、数学・理科系、リテラシー系に大別し、体系化している。付属校推薦入試と指定校推薦入試の進学予定者に入学前の学習プログラムを設け、また、新入生全員に数学・英語・理科におけるプレースメントテストを実施して能力別のクラス分けにも配慮している。その他、国際化に対応するためのSAプログラムやキャリア教育としてインターンシップを3年次生対象に実施するなど、特徴ある教育プログラムを継続的に実施している。

### ③教育方法に関すること (2.4)

理工学部のシラバスはWEB上に公開され、その校正・確認は教員が行う。シラバスを含め履修の指導は学科別ガイドランスで履修の手引きを配布し、学科主任ならびに担当教員が指導している。さらに重要な科目について演習により習熟度を高めたり、20名以下の少人数クラスの必修科目を設置するなど教育方法は工夫されている。学習時間の確保を狙いとして履修制限が設けられ、一方優秀な学生には履修上限単位数を引き上げ多数の履修を認めるなど柔軟性もある。

### ④学習成果・教育改善に関すること (2.5～2.7)

成績評価にはGP及びGPAが算出され習熟度を概観できる。理工学部は他大学等からの転・編入を実施していないため、他大学等における既修得単位の認定はしていない。成績評価は定期試験、レポートなどにより総合的かつ厳格に行われるとともに、学生による成績調査申請の仕組みをもっている。GPAの学科別分析、必修科目の不合格者統計など学習成果を検証するための多くの指標がつくられ、これらについては各種分析方法を施しデータは可視化される。これらは、プレースメント・テストの集計結果等とともに、教室会議、執行部会議、教授会にフィードバックする体制を構築している。また、学生による授業改善アンケートは各教員にフィードバックされる。また、学科ごとに就職担当教員を配置し、情報を大学院専攻会議と共有するなど就職・進学状況の把握に努めている。

## 3 学生の受け入れ

### 【2017年5月時点の点検・評価】

#### (1) 点検・評価項目における現状

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。



3.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

【学生の受け入れ方針】

本学部の教育理念・目的を達成するとともにその効果を高めるためには多様な資質を持った学生を受け入れ、相互に切磋琢磨する教育環境を構築することが重要である。下記のように多様な入試経路を設け異なる背景をもって入学した学生が在学期間中に互いに啓発しあうことにより、社会的適応性をもち人格的にも優れた人材を輩出することを可能とする。

1. 一般入学試験（学部・学科に重要な基礎学力のレベルの高い学生を選抜する）
2. T日程および英語外部試験利用入試（全国から主要科目の基礎学力を重視し学生を選抜する）
3. 大学入試センター試験利用入試（バランスのとれた学力を有する学生を全国から集めることを目的とし、基礎学力に注目した選抜を行う）
4. 指定校推薦入試（豊かな自発性、指導性、自由な発想力を重視して指定する高校から優秀な学生を受け入れる）
5. 付属校推薦入試（高大連携により特色ある教育の実践を目指し意欲のある付属校生を受け入れる）
6. 帰国生入試・外国人留学生入試（国際性を身につけた学生を受け入れる）
7. スポーツに優れたものの特別推薦入学（学業とスポーツを両立できる優れた人材を受け入れる）

なお、いずれの経路の入学生にも高校で履修する理系科目及び英語について、入学時十分な基礎的素養を持つことが要求される。また、障がいのある学生についても可能な限り受け入れる方針である。

① 求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を設定していますか。 はい  いいえ

3.2 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

① 定員の超過・未充足に対し適切に対応していますか。 はい  いいえ

(～200字程度まで) ※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。  
問題となる定員超過・未充足があった場合は、クラス増や実験器具増設及び関連委員会での検討を踏まえ、適宜対応している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・理工学部教授会資料

定員充足率（2013～2017年度） （各年度5月1日現在）

種別\年度	2013	2014	2015	2016	2017	5年平均
入学定員	553名	553名	553名	553名	553名	
入学者数	509名	656名	542名	549名	593名	
入学定員充足率	0.92	1.19	0.98	0.99	1.07	1.03
収容定員	1,983名	2,126名	2,169名	2,212名	2,212名	
在籍学生数	2,158名	2,357名	2,309名	2,326名	2,388名	
収容定員充足率	1.09	1.11	1.06	1.05	1.08	1.08

※1 定員充足率における大学基準協会提言指針

【対象】

- ①学部・学科における過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均
- ②学部・学科における収容定員に対する在籍学生数比率

【定員超過の場合】 ※医学・歯学分野は省略

提言	努力課題	改善勧告
実験・実習を伴う分野 (心理学、社会福祉に関する分野を含む)	1.20以上	1.25以上
上記以外の分野	1.25以上	1.30以上

【定員未充足の場合】

提言	努力課題	改善勧告
すべての分野共通	0.9未満	0.8未満

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

※2 定員充足率における私立大学等経常費補助金不交付措置の基準

年度	～2015	2016	2017	2018～
入学定員超過率	1.20 以上	1.17 以上	1.14 以上	1.10 以上
収容定員超過率	1.40 以上	1.40 以上	1.40 以上	1.40 以上

3.3 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

①学生募集および入学者選抜の結果について定期的に検証を行い、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。

S A B

(～400 字程度) ※検証体制および検証方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。

・経路別合格者数、入学者数、入学者の学力などの年次データを共有し検討している。

【2016 年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。

・外国人留学生の数と質のバランスを追求し、2016 年度においてはグローバル化対応の各種入試方法の導入に関して検討を重ねた結果、2018 年度入試から次の入試方法の実施を決定した。(1) 指定校推薦入試について英語外部スコアの提出が望ましい(スコア基準なし)とする。(2) 留学生入試について、英語外部試験を追加し、理科の追加を学科裁量で認める。(3) 留学生入試について、渡日前入試を実施する。(4) 留学生入試について、法政大学日本語教育プログラム修了生を対象とする。(5) 英語外部試験利用入試を実施する。

・スポーツ推薦入試に理科の履修条件を追加して入学後の修学困難に対応することとした。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・理工学部教授会資料

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2016 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
経路別合格者数、入学者数、入学者の学力などの年次データを共有し検討している。経路別の入学者数及び学力分布を分析し、入試制度改革を検討し、学部の変差値の向上を目指す。	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・一般入試と特別入試の募集人員枠の見直しについて、今後検討したいと考えている。

【この基準の大学評価】

理工学部では、定員超過や未充足があった場合の対応策は関連委員会での議論を踏まえ対応していくこととされているものの、近年5年間の入学定員充足率は 1.03 と適正な値を示している。収容定員充足率は高めであるが改善されつつある。多様な入試経路に着目して、経路別の学力分布分析がなされており、入試制度改革の良い検討データになるものと思われる。2016 年度においてはグローバル化対応の各種入試方法の導入に関して検討を重ねられ、英語外部スコア、留学生の渡日前入試などを活用する新たな入試制度が 2018 年度から実施されることとされている。また、スポーツ推薦入試による入学後の修学困難への対応として、新たに理科の履修条件を追加した。

4 教員・教員組織

【2017 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

4.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

【求める教員像および教員組織の編制方針】 (2011 年度自己点検・評価報告書より)

求める教員像：理工学部の理念・目標を達成するため理工学部の教員は各自の専門分野をリードする高い見識と研究能力を有するとともに教育の質保証を実現するため教育に対する熱意と優れた教育力を併せ持つことが求められる。この教員

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

像は全ての理工学部教員に等しく要求されるものであり、この教員像に合致する質の高い教員を確保することはリーディングユニバーシティーたらんとする法政大学全体のビジョン実現に不可欠の要素である。

教員組織の編制方針：各学科の主要分野に対して必要にして十分な数の教員を配置することを原則とする。学科主要分野の設定及び教員組織の編制は中長期計画にそって学部全体の十分な合意のもとに進める。学部横断的な共通基礎、教養分野の教育組織については全学的な学士課程再編成の方針に沿った形で小金井キャンパス全体の合意の上で構築する。

①採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていますか。

はい いいえ

**【根拠資料】** ※教員に求める能力・資質等を明らかにしている規程・内規等の名称を記入。  
 教員採用と昇格の基準は、法令の要件を踏まえて、下記の教授会規程教員資格内規に定められている。

- ・理工学部教員審査内規
- ・理工学部教授、准教授及び専任講師資格内規
- ・教員資格についてのガイドライン
- ・学部任期付教員規程
- ・助教規程

②組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。

はい いいえ

**【学部執行部の構成、学部内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】** ※箇条書きで記入。

- ・理工学部執行部は学部長、教授会主任、教授会副主任及び各学科主任で構成されている。
- ・学部内の基幹委員会（一部は生命科学部・情報科学部との共同運営委員会）として、人事委員会、安全対策委員会、FD・質保証委員会、カリキュラム委員会、付属校・入試制度検討委員会、広報委員会、研究推進委員会、国際化委員会、教職課程運営委員会等が設置されている。
- ・それぞれの委員会は当該委員会の設置趣旨に基づき、理工学部または小金井にある生命科学部・情報科学部との共通問題に関する検討や新しい展開に関する企画等を行っている。
- ・委員会運営については、委員の互選による委員長責任体制であるが、最終的な運営責任は教授会または執行部にある。

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・理工学部教授会規程第8条
- ・理工学部教授会資料

#### 4.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

① 学部（学科）のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。

はい いいえ

(～400字程度まで) ※教員像および教員組織の編制方針、カリキュラムとの整合性、国際性、男女比等の観点から教員組織の概要を記入。

理工学部では、教授、准教授及び専任講師資格内規に基づき、各学科人事推薦委員会、学部人事委員会及び教授会において、教員任用に関する検討・審議を行っている。なお、教養系科目の担当教員の選考は学部執行部、該当教員の所属学科及び小金井リベラルアーツセンターと連携して行われ、専門科目に加えて教養教育（基礎理系科目：数学、物理）を担当できること、入試問題を担当できることも考慮する形で採用している。

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・理工学部教員審査内規
- ・理工学部教授、准教授及び専任講師資格内規
- ・教員資格についてのガイドライン
- ・理工学部教授会規程

②教員組織の編制において大学院教育との連携を考慮していますか。

はい いいえ

(～400字程度まで) ※教員組織の編制において大学院教育との連携にあたりどのようなことが考慮されているか概要を記入。

理工学部では、大学院理工学研究科との教育・研究上の連携を積極的に推進している。理工学部教員資格についてのガイドラインでは、教授は専門分野において顕著な研究業績を有し、博士後期課程の研究指導及び講義担当適格者であることが明示されている。また、理工学部各学科と大学院理工学研究科各専攻は同一の教員組織で運営されており、教育研究は強い連携が前提となっている。例えば、研究室単位で学部生の卒業研究や大学院生の特別研究等のゼミ発表会は共同で行われるケースも多い。また、大学院修士課程の教育は学部教育の延長線上にあるとの共通認識の下で、学部専門課程でのコース（専門分野）別教育と対応する大学院での研究教育の活性化を目指し、学部4年生に対する大学院修士課程科目の先取り履修制度が実施されており、理工学部で開講している教職課程関連科目などは科目履修制度によって大学院生に

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

も開かれている。加えて、大学院生は理工学部の実験・演習等の実技科目、PBL・ゼミナール等の少人数教育授業や卒業研究等に対する教育補助スタッフ（TA）として活躍している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・教員資格についてのガイドライン
- ・理工学部教授会議事録

2017年度専任教員数一覧

(2017年5月1日現在)

学部・学科	教授	准教授	講師	助教	合計	設置基準上 必要専任教員数	うち教授数
機械工	15	0	2	0	17	10	5
電気電子工	8	3	3	0	14	9	5
応用情報工	9	3	0	0	12	9	5
経営システム工	6	6	0	0	12	8	4
創生科	20	1	0	0	21	9	5
学部計	58	13	5	0	76	45	24

専任教員1人あたりの学生数（2017年5月1日現在）：31.4人

③特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。

はい いいえ

【特記事項】（～200字程度まで）※ない場合は「特になし」と記入。

過去、一部で年齢構成の偏りが見られたが、ここ数年の人事計画においては、任用後の教授会構成員の年齢構成を考慮に入れ、教員組織の年齢分布の適正化を図っている。下記の根拠資料から2016年度の在職中の30代教員の年齢構成比率は大幅に増えていることがわかる。

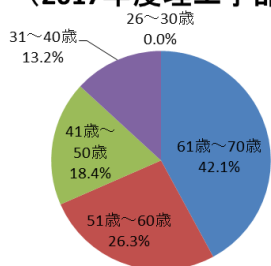
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

年齢構成一覧

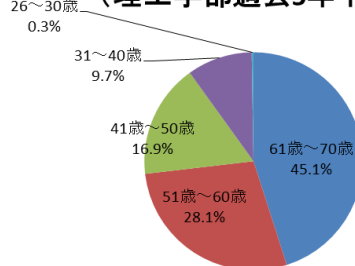
(2017年5月1日現在)

年度\年齢	26～30歳	31～40歳	41～50歳	51～60歳	61～70歳
2017	0人 0.0%	10人 13.2%	14人 18.4%	20人 26.3%	32人 42.1%

年齢構成比  
(2017年度理工学部)



年齢構成比  
(理工学部過去5年平均)



4.3 教員の募集・採用・昇任等を適切に行っているか。

①各種規程は整備されていますか。

はい いいえ

【根拠資料】※教員の募集・任免・昇格に関する規程・内規等の名称を簡条書きで記入。

- ・教員審査内規
- ・学部教授、准教授及び専任講師資格内規
- ・教員資格ガイドライン

②規程の運用は適切に行われていますか。

はい いいえ

【募集・任免・昇格のプロセス】※簡条書きで記入。「上記根拠資料の通り」と記載し、内規等（非公開）を添付することでも可。

- ・上記根拠資料の通り

4.4 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

① 学部（学科）内のFD活動は適切に行なわれていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p><b>【FD活動を行うための体制】</b> ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>理工学部内にFD・質保証委員会を設置し、学科・学部の連携によるFD推進を実行している。</li> </ul> <p><b>【2016年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】</b> ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全学科で授業相互参観を行っている。2016年度秋学期は、学部全体で専任教員の担当する全567科目を公開し、機械工学科27科目、電気電子工学科44科目、応用情報工学科11科目、経営システム工学科2科目、創生科学科6科目はそれぞれ授業の相互参観を実施した。</li> <li>授業改善アンケートにおいては独自質問を設定し、授業の改善に向けた懇談会を行っている。授業改善アンケートにおける自由記述とGPAのクロス集計を行い教員へのフィードバック情報の有効性を高めている。</li> <li>研究活動状況を研究集報として公表し、教員の当該年度の研究業績や学会活動を掲載している。</li> <li>学生モニター制度を活用し、個別教員に対する意見があった場合、執行部から当該教員に改善点を連絡している。</li> <li>導入教育の一環として新入生対象にフレッシュマン・イブニングカフェをオープンし、1年生の履修状況を把握し、履修指導や精神的な不安の払しょくに努めている。</li> <li>FD推進センターの各種イベントを所属教員に周知している。</li> </ul> <p><b>【2016年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>学部FDの一環として、FD推進センターの主導で理工学部「教員による授業相互参観」が毎年実施され、授業改善アンケートとともに、授業の質の向上につながっていると思われる。しかし、理工学部で現在実施されている「教員による授業相互参観」は学科の専任教員だけで実施されており、学科の専門科目を対象としている。これまでの「教員による授業相互参観」の補完として、2017年度より、学部FD・質保証委員または学部専任教員による兼任教員担当科目の授業参観を実施する（1学科1コマ、計5コマ）。通常の「教員による授業相互参観」の実施期間中で行い、実施報告書は学部教授会に報告する。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>理工学部教授会資料</li> </ul>	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
学生モニター等で、兼任講師が担当する授業科目に対する意見が時々見られる。兼任講師の方々にも授業相互参観や授業改善アンケート等のFD活動に積極的に参加していただくことが望ましい。それで、2016年度の理工学部教授会では、2017年度から兼任講師の担当科目も各学科それぞれ1コマずつ、授業相互参観に加わることを決定した。	

(3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

理工学部各学科では、毎年度末に兼任講師の方々を招いて、専任教員全員参加の形でカリキュラムに対する講師懇談会を行っている。他大学や企業からの兼任講師の方々の授業に関する意見から、学部・学科のカリキュラム編成の改善につながる場合も多い。しかし懇談会は年1回であり、その効果が限られている。兼任講師も含む学科単位のカリキュラム編成等のFD活動を学部として支援すべきである。
---

**【この基準の大学評価】**

理工学部における教員の採用・昇格は内規において基準が明記されており、教員組織は学部長、教授会主任・同副主任、学科主任からなる執行部と基幹委員会という明快な体制が造られ、機能している。そして、最終的な運営責任者は教授会または執行部にあることが明確になっている。大学院修士課程は学部教育の延長線上にあるとの共通認識のもと、学部教育と大学院教育は密接に連携されている。教員任用は内規に基づき、教授会及び人事委員会により検討・審査が行われ、また教養教育に関しては小金井リベラルアーツセンターと連携し、組み立てられている。教員の年齢構成は改善されつつあるものの、なお高い年齢層の教員が相対的に多い状況にある。授業相互参観は前年度よりさらに拡大され、授業改善アンケートにも積極的に取り組まれるなど、教員の資質向上に係る取り組みは充実している。
---

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

## 5 学生支援

### 【2017年5月時点の点検・評価】

#### (1) 点検・評価項目における現状

5.1 学生支援に関する大学としての方針に基づきとしての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	
①卒業・卒業保留・留年者および休・退学者の状況を学部（学科）単位で把握していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<b>【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】</b> ※箇条書きで記入。 ・教授会、執行部会議、学科教室会議及び専修会議等で、学部として組織的に把握している。 <b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・理工学部教授会資料	
② 学部（学科）として学生の修学支援をどのように行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
（～400字程度まで）※修学支援の取り組みの概要を記入（取り組み例：クラス担任、オフィスマワー、学生の能力に応じた補習・補充教育、アカデミックアドバイザーなど）。 <b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
③ 成績が不振な学生に対し適切に対応していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<b>【成績不振学生への対応体制および対応内容】</b> ※箇条書きで記入。 ・低学年の成績不振学生には、成績が優秀な高学年の学生によるチューター制度などによって対応し、その運営方法については教員のアンケート調査も実施し、検討も詳細に行われている。 ・基礎学力が劣った成績不振の学生に対して、リメディアル教育、補習授業による指導体制の強化も2015年度から実施され、教員による指導体制の強化も行いつつある。 ・学習意欲不足などが原因の成績不振の学生には、カウンセリングやクラス担任による指導などで対処している。 <b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・理工学部教授会資料	
④学部（学科）として外国人留学生の修学支援について適切に対応していますか。	S <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/>
（～400字程度まで）※外国人留学生の修学支援に関する取り組みの概要を記入。 理工学部として、積極的に外国人留学生の学習支援を行っている。外国人留学生のための日本語講座の開講、日本人学生によるチューター制度の導入をしている。また、学部広報資料の英語版や中国語版の発行や海外大学との共同教育プログラムの実施可能性について、今後検討する予定である。 <b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	

#### (2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

#### (3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・留年者、休学者及び退学者の情報を学科または学部の会議で把握しているが、それに対応する方策の検討は今後の課題としたい。</li> <li>・本学のグローバル化対応のための大学院 IIST プログラムに連動し、学部レベルでの外国人留学生の修学支援策を検討したい。</li> </ul>
--

### 【この基準の大学評価】

理工学部では、留年者、休学者及び退学者の情報は学科または学部で把握しているが、それへの対応方策の検討は今後
---

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

の課題とされている。成績不振な学生については成績が優秀な高学年の学生によるチューター制度やリメディアル教育、補習授業など多様な対応で、学力向上に向けた取り組みが見られる。外国人留学生の学習支援については、日本語講座の開設やチューター制度の整備などが既に行われ、今後広報資料の多言語化や海外大学との共同教育プログラムの実施などについて検討がなされている。

#### IV 2016年度における現状の課題等に対する取り組み状況

評価基準		教員・教員組織
現状の課題・今後の対応等		<p>学科によっては、毎年度末に兼任講師の方々を招いて、専任教員全員参加の形でカリキュラムに対する検討懇談会を行っている。他大学や企業からの兼任講師の方々の授業に関する意見から、学部・学科のカリキュラム編成の改善につながる場合も多い。しかし懇談会は年1回であり、その効果が限られている。兼任講師も含む学科単位のカリキュラム編成等のFD活動を学部として支援すべきである。</p> <p>学生モニター等で、兼任講師が担当する授業科目に対する意見が時々見られる。兼任講師の方々にも授業相互参観や授業改善アンケート等のFD活動に積極的に参加していただくことが望ましい。</p>
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	<p>2016年度は、予算の制約もあり、兼任講師の方々を招いた専任教員全員参加のカリキュラム検討懇談会を従来通り年1回だけ実施した。また、兼任教員に関わるFD活動の推進を以下の通り策定、実施した。(1) 学部FD・質保証委員または学部専任教員による兼任教員担当科目の授業参観を2017年度から実施する。1学科1コマで理工学部で合計5コマ。(第100回理工学部教授会承認)。(2) 2016年12月9日にて兼任教員の授業も含めて理工学部学生モニター制度実施を行って、第105回理工学部教授会で報告した。</p>
	質保証委員会による点検・評価	<p>カリキュラム検討懇談会が計画通り実施され、FD活動が適正に実行され、今度のFD活動計画が示されたことは評価できる。</p> <p>(1) 兼任教員科目の授業参観が次年度目標として示されたことは、教育の質保証確保の取り組みとして評価できる。各種雇用制度整備をはじめとする教育・研究体制整備全般に関わる総合分析が望まれる。</p> <p>(2) 理工学部学生モニター制度が当初計画に沿って実施されたことは評価できる、実施の効果・分析の説明が望まれる。</p>
評価基準		教育課程・教育内容
現状の課題・今後の対応等		<p>理工学部では外国人留学生の在籍者数は他学部比べてそれほど多いとは言えず、他学部で導入されているグローバル化対応の各種入試方法を導入すべく、2016年度に検討する。</p>
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	<p>外国人留学生の数と質のバランスを追求し、2016年度においてはグローバル化対応の各種入試方法の導入に関して検討を重ねた結果、2018年度入試から次の入試方法の実施を決定した。(1) 指定校推薦入試について英語外部スコアの提出が望ましい(スコア基準なし)とする。(2) 留学生入試について、英語外部試験を追加し、理科の追加を学科裁量で認める。募集要項には「面接には数学・理科・英語などの基礎学力の確認を含みます」の文言を加える。(3) 留学生入試について、渡日前入試を実施する。(4) 留学生入試について、法政大学日本語教育プログラムの修了生を対象とする。(5) 英語外部試験利用入試を実施する(以上、第102回理工学部教授会で承認)。なお、2017年度理工学部外国人留学生入試の志願者数は大幅に増加している。</p>
	質保証委員会による点検・評価	<p>外国人留学生受入れ強化の取り組みは時宜を得ており、グローバル化対応と教育の質保証確保の観点から、2018年度入試方法の導入を決定したことは評価できる。</p>
評価基準		教育方法
現状の課題・今後の対応等		<p>授業がシラバス通りに行われているかの検証については、今後、授業相互参観、授業改善アンケート及び学生モニター制度等を活用し、現状をより適切に把握したい。また、他大学等における既修得単位の認定導入について検討したい。</p>
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	<p>授業がシラバス通りに行われているかの検証については、2016年度にそれぞれ理工学部教員による授業相互参観、FD推進センターによる授業改善アンケート及び理工学部学生モニター制度の活用で現状を調べ、概ね授業はシラバス通りに行われていると認識している。理</p>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

		工学部教員による授業相互参観の実施報告、授業改善アンケートの集計結果及び理工学部学生モニターの実施報告はそれぞれ教育開発支援機構に報告され、学部長会議資料にも掲載されている。
	質保証委員会による点検・評価	シラバス点検を目的として、授業相互参観・授業改善アンケート・理工学部学生モニター制度の実施と分析により、授業の適正実施が確認されたことは評価できる。各種会議への報告も完了している。
評価基準		成果
現状の課題・今後の対応等		就職情報は各学科の就職担当者とキャリアセンターとの連携により把握されているが、学部別の就職進捗状況の月例報告のようなデータを共有したい。今後、学部執行部とキャリアセンターの連携をさらに図っていききたい。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	就職情報は各学科の就職担当教員とキャリアセンターとの連携で把握されており、学部執行部は学部長会議等で全学の就職状況、理系・文系別の就職状況の情報を得ている。また、学生モニターの実施を通して、学生の就職に対する要望も集約し、キャリアセンターに報告している。
	質保証委員会による点検・評価	各種の就職情報が、関連機関や学生を通して収集・集約され、キャリアセンターとの連携も効果的に実施され、学生支援の成果が得られたことは評価できる。
評価基準		学生の受け入れ
現状の課題・今後の対応等		経路別の入学者数及び学力分布を分析し、入試制度改革を検討するとともに、FD 活動へフィードバックし、学部の偏差値の向上を目指す。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	学部執行部と大学入学センターとの入試情報交換会を通して、理工学部経路別の入学者数及びGPA等の学力分布を概ね把握しており、今年度は主にグローバル化対応の各種入試方法の実施導入を決めたほか、スポーツ推薦入試に理科の履修条件を追加して入学後の就学困難に対応することとした。その他の一般入試と特別入試の募集人員枠の変更については検討しておらず、次年度の課題としたい。指定校推薦については、高校ランク、推薦枠、入学状況の精査を毎年行い、指定校の見直しを適宜実施している。
	質保証委員会による点検・評価	グローバル化対応の各種入試の導入と、スポーツ推薦入試や指定校推薦の見直しの実施は時宜を得ており、取り組みは妥当と評価できる。
評価基準		学生支援
現状の課題・今後の対応等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・留年者、休学者及び退学者の情報を学科または学部の会議で把握しているが、それに対応する方策の検討は今後の課題としたい。</li> <li>・本学のグローバル化対応のための大学院 IIST プログラムに連動し、学部レベルでの外国人留学生の修学支援策を検討したい。</li> </ul>
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	留年者、休学者及び退学者の情報を小金井事務部学務課と理工学部執行部、学科主任の間で共有しており、GPA 制度を活用し、学科ごとに学力不振者への個別の対応を行っている。2016年度は学部外国人留学生への修学支援策を特に検討していないので、次年度の課題としたい。
	質保証委員会による点検・評価	学力不振学生への対応方法は妥当と評価できる。今後、学力および就学状況改善の方策が示され、質保証確保に資することが望まれる。

#### 【2016年度における現状の課題等に対する取り組み状況の評価】

理工学部の兼任教員を招き、専任教員も全員参加して行う「カリキュラムに対する検討懇談会」は、カリキュラム編成の改善に向けて有効な取り組みであり、開催回数増は実現できてはいないものの年1回開かれている。授業相互参観が兼任教員科目に拡げられるなど、FD活動の拡充がみられる。外国人留学生比率を高めるための取組として、2018年度から大幅な入試方法の変更が予定されている。シラバス点検を目的として、授業相互参観・授業改善アンケート・理工学部学生モニター制度の実施と分析により、授業の適正実施が確認されたことは評価できる。就職情報は各学科の就職担当教員とキャリアセンターとの連携で把握されており、学部長会議から伝えられる全学の就職状況情報などを踏まえ、確認されるようになった。経路別の入学者数及びGPA等の学力分布は概ね把握されており、スポーツ推薦入試に理科の履修条件を追加して入学後の就学困難に対応することとされた。2016年度の指摘の内いくつかはさらに次年度の課題とされているものの、総じて課題に対し具体的な施策により対応されているものと評価できる。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。



## 【大学評価総評】

理工学部においては、2012 年度に改変し構築された PDCA サイクルとこれへの従事により、学部教員の自己点検に対する意識向上が図られているものと評価できる。3つのポリシーは改定され完成版に至ったとされ、これらが履修の手引き・WEB 等により周知・公表されている。学科によりコース制が設けられ、また選択科目の履修モデルが示されるなど、カリキュラムは教養科目なども含めて体系化されている。国際化に対応するための SA プログラムなど、特徴ある教育プログラムが継続的に実施されている。シラバスは WEB 上に公開され、それに沿った授業が行われているか等について、相互授業参観、学生アンケートなど複数の方法で検証が行われている。成績評価には GP 及び GPA が算出され習熟度を概観でき、データは分析され可視化されており、この結果を基に成績不振学生への対応も行われている。課題とされていた留学生比率の向上に向け、2018 年度入試では大幅な改善策が予定されている。過年度までやや高めであった収容定員充足率は改善の方向にあり、専任教員の年齢構成に関する是正方針は実行され成果を挙げている。2016 年度に課題とされた事項の多くは対応され、引き続き残った課題への対応方針が示されている。

以上のように理工学部では、教員・教員組織、教育規程・教育内容、教育方法、学生の受入れ、学生支援などに係る自己点検は機能し、多くの側面での改善がなされてきている。今後、その成果についてより具体的な指標などとして確認されていくことが期待される。

なお、大学院（修士課程）への進学率は、現在 3～4 割程度であるが、学科によっては工学部時代の水準に戻りつつあるとのことである。景気や社会情勢等に左右されると思うが、今後も進学率向上への努力を続けていただきたい。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。